

ねん ど だい かい しずおか し がいこくじんじゅうみんこん わ かいかい ぎろく  
2012年度 第6回 静岡市外国人住民懇話会会議録

- 1 日時 平成24年9月21日（金） 19:00～20:30
- 2 場所 静岡市クリエイター支援センター1階 第2会議室
- 3 出席者 外国人住民懇話会委員7名  
王川 絹子、コルベイ ステイブ、宋 在英、  
ナウオッド スレッシュ、朴 政浩、  
樋熊 アメリア、関 俊哲

事務局 5名、静岡市国際交流協会 1名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 市政施設見学「ぐるり☆しずおか探訪」について
- (3) 東京都大田区多文化共生推進協議会視察について
- (4) 意見交換
- (5) 事務連絡
- (6) 閉会

5 会議内容

会長

まず、7月19日の市政施設見学に参加された委員からの感想をお願いします。

樋熊委員

いろいろ勉強になりました。最初は中央子育て支援センターへ行って、1日のスケジュールを覚えてもらいました。突然行って預かってもらうこともできるのですが、すぐに定員オーバーになってしまうので、予約をとった方がいいみたいです。遊ぶところや食事、おもちやとか全部見せてもらいました。

そして、西島学校給食センターへ行き、小学校の給食を作るところを見ました。部屋の中までは見られなかったのですが、2階からしっかり見ることができました。厳しい衛生管理のもと、ご飯を作っているみたいですね。私も惣菜の仕事をしていて、毎月、

衛生管理のチェックをしています、ここまでの厳しさはないですね。野菜はどこで作っているものかとか全部調べなくては行けないし、食べ物への責任感がすごいと思いました。私達も実際給食を食べて、栄養バランスがあるし、作っている方、献立を考えている方とそれぞれ担当がいますので、ちゃんと安心して出せる給食ですね。

## 会長

ありがとうございました。残念ながら本日、もう一人の参加者ディリブ委員が欠席だったので、また次回お話しを聞ければと思います。次に、9月12日の大田区多文化共生推進協議会視察に参加された委員からの感想をお願いします。

## 朴委員

先週水曜ですね、大田区多文化共生推進協議会を覗かせていただきました。午前中の会議だったのですが、はじめに静岡市のような方式で開会して、その後テーマに沿って2つの分科会に分かれて討論していました。1つが子育て支援グループ、もう1つが情報提供グループでした。どちらか一方に参加すればよかったのですが、行き来してもよかったので交互に見させていただきました。

よそでやっているのをはじめて見たものですから、大変新鮮でした。基本的に、静岡市のように外国人だけに運営を任せるのではなく、MCの方に日本人の方が1人いらっしゃって運営していく、分科会も行政の方が入って意見交換をしていました。

子育て支援グループに関しては、2人の方がヒートアップした議論をずっとしていたので、正直聞いているのが辛かったです。主に情報提供グループにいたのですが、男性、女性、様々な国籍の方がいらっしゃって面白い議論をされていました。

静岡市とは違い、東京の中では大田区はローカルですが、やはり都会ですね。都会なりの議題や悩みが出ていました。漠然としか説明できませんが、静岡市なら川とかで区切りやすそうですが、向こうはあまりにも流動人口が多く、川崎や品川、あらゆる方面から人が来るので、厳密に大田区の外国人に対してアプローチする、網を掛けるのが難しいとおっしゃっていました。所変われば事情も変わるということで、そのような特徴があるのかなと思います。

ただ共通しているところは、いくらインターネットや携帯電話等が発達しても、やはり最終的には人間関係が一番大切なのでしょうねと話していました。都会だからなおさらなのかわかりませんが、ソーシャルネットワークを使いましょうと言いつつも、やはりアナログ的な人間関係、顔を合わせないと議論も発展しないだろうし、メールだと冷めた文章になってしまいますので、その人の持っているしゃべり方や間の取り方、何を言おうとしているのか顔を見合わせなければわからないとおっしゃっていて、私も同感しました。

もう1つ、もっと子どもを主としたイベントをやりたいと言っていました。国籍関係なしに子どもが来ると保護者が来る、子どもだけの世界では終わらないので、芋づる的にで

も外国人と日本人の交流をできるだけ深めようという姿勢が感じられました。歴史は静岡市より短いですが、新しいことをやりましょうという熱意が表れていたのではないかなと感じましたね。

会長

私の意見もだいたい同じです。1つやり方として、会議は火曜日の朝10時に行われていたため、区役所職員の方々がもっといらっしやって、疑問や問題がある時に直接職員の方々が話を聞くことができました。しかし残念ながら、火曜日の朝だと仕事している方は参加できませんので、基本的に日本人関係者と、外国人委員として専業主婦の方、退職された方でした。多少妥協しなくてはならないし、外国人が少なかったような感じがしました。

私たちの懇話会と違って、直接発言する外国人はあまりいませんでした。外国人のための会議なら、静岡市のような形を維持するべきだと思います。ただ、この会議のいいところは、ワークショップという形でやっていて、1つのテーマに興味がある人の集まりだったので、そういう点では効果的だったと思います。会議の時間も2時間だったので、より長く意見交換ができるのではないかなと思います。今回この協議会に参加して、学ぶべき点はいくつかありましたが、逆に今の私たちのやり方を維持するべきと思う点もたくさんありました。朴委員がおっしゃっていたように、少し規模が大きかったのですが、実際出てくる問題は非常に似ていました。防災や子育ては、私たちとあまり変わらなかったし、解決方法や提案もそこまで変わらなかったです。

ただ1つ面白い提案がありまして、1人の外国人の人が「もっと Facebook や Twitter 等のソーシャルネットワークを利用すべき」と提案したのですが、区役所の方は「もっとアナログ的なものを利用したい」とおっしゃっていました。今もパソコンやインターネットを利用するといろいろな問題が起こってきますが、外国人からそのようなニーズは多いみたいですよ。

朴委員

やはり防災についての話は多かったですね。こちらとは違って、電車が止まったら話にならないみたいなので、3.11の時は、公の機関を夜ずっと開けていたそうです。いざ何か起きた時には、静岡と共通していますが、どうやって外国人に周知して避難させるのかというところに、大変頭を痛めているようでした。100%の答えはないと思うんですよ、皆さん使っている言語も日本語の習熟度も違いますから。その辺の伝達等に対しては、まだ手探り状態なのだと思いますが、ベストがなくてもベターなものを探したいですよ。

会長

静岡の場合は永住する気持ちの方が多し、留学生でも静岡に就職し、そのまま同じアパートに住む方が多いのですが、やはり大田区の場合は東京都内の別の区へ行ったり

移動したりすることが多いそうなので、少し事情が違ふところがありました。

朴委員

ただ、面白い意見としては、台湾の方がおっしゃっていたのですが、東京都なので流動人口が多いものですから、大田区に対する愛着心があまりないけれど、いざ川崎や品川から人が来ると、大田区民としての誇りが出てくるみたいです。都会の人と比べたら、静岡市民のほうが、まだ市に対する愛着心があるのかなと感じました。でもやはり、似通った問題に対しては、手詰まり感があったように感じました。これから住んでいくにあたって、切っても切れない日本人との共生の問題と防災の話は、避けて通れないみたいですね。あとは、今学校に就学している子供たちに対する教育をどうするべきなのかという問題ですね。ただ、やってみないとわからない、何とかしようという意見は非常に強く感じました。とてもアグレッシブ、女性の方も自信を持って発言されていたので、やはり都会とは違ふなと感じましたね。

会長

おっしゃったように、静岡は愛着心が深いので、その人たちが東京へ行かないような環境作りが必要だと思いますね。

朴委員

ただ、システムとしてちょっと羨ましいと思ったのですが、外国人だけで運営することは大切だとは思いますが、大田区のようにオブザーバー的なものでもいいので、行政の方にワンクッション入ってもらえたら、会議が停滞した時に回しやすくなるのかなと感じました。大田区はあまりにも日本人が回しすぎだったけれど。

会長

そうですね、外国人があまり発言できない環境でやっても良くないと思いますので、行政の方にワンクッション入ってもらいたいと思います。あと、ワークショップの実施と時間を少しだけ延長することが、私がこの協議会から得たものです。それでは、そろそろ子育てについての意見交換に入らせていただきます。

事務局

始める前に、上地副会長からメールを預かりましたのでご紹介させていただきます。「大田区多文化共生センターに到着した時、最初に目についたのが、翻訳されたチラシの中にポルトガル語やスペイン語のチラシがなかったことでした。とても驚きました。その後会議に参加しました。テーマは子育て支援でした。この会議の委員はほとんど日本人でした。

今回の懇話会、子育て支援への意見ですが、幼稚園や学校に外国人がいる場合は、その外国人の子供が、その国の文化を紹介すること、場合によっては、その子供のお父さんお母さんどちらかが一緒に参加する。そこで子供たちが日本以外の文化に触れてもっと仲良くなったりするのではないのでしょうか。また、外国人の両親も他の親たちと仲良くなるのではないのでしょうか。」

会長

ありがとうございました。9月12日に参加された事務局の方のご意見、ご感想等ありますか。

市民生活課長

会長、朴さんと同じで、この懇話会との違いは、先ほどの話にもありましたが、行政が間に入って質問や疑問があった時にすぐに答えられるということで、なかなかいいなと思いました。毎回は無理かもしれませんが、「このような疑問があるので、このような役所の方に来てもらいたい」という話があれば、こちらから担当部署に話をして、都合がつけば来てもらうことは可能なかなと思います。

また、協議会では、会議が終わった後、皆さん集まって報告会をしていました。その時に各分科会の中で、発表する人を決めたりして、分科会の意見をまとめ、最後全員集まった時に発表していました。まとめることで一つの成果が出るので、いいなと思いました。

会長

ありがとうございました。それでは王川委員から子育てについての意見をお願いします。

王川委員

自分の子育てを振り返ってみると、本当に楽しみ、期待、不安を交えながら毎日過ごしていたと思います。考えると長い道のりですよね、国の違い、環境の違い、言葉の違いとかあっても、親の子供に対する愛情は変わらない。やはりこの愛情があったからこそ、悩みや不安がありました。これは日本人も共通だと思います。子供が成人を越えても悩みや不安は常にあります。それぞれの時期に、それぞれ違った悩みをずっと持っていました。ですから、子育てについて考えてみるとまず、親の意思を尊重することが一番大事だなと思います。それぞれの親の育てる環境、価値観は違うから、子供への育て方も違いますよね。

あと、私の住んでいる、勤めている地域の子育て事情を調べてきました。私が今勤めているのは清水の駒越地区なのですが、子育て事業を積極的に行っています。まず1つ目は駒越市立保育園。この保育園は入園児以外の一般の人に、毎月、公開授業も行っています。2つ目は地域子育て支援センター。これは、あけぼの私立幼稚園ですが、静岡市の委託事業

です。3つ目は駒越連合自治会、地区社協の子育て支援。駒越交流センターで毎月何回か子育て支援事業を行っています。4つ目は駒越生涯学習交流館。年間7、8回事業を行っています。この駒越地区、3,500世帯に対して4つの子育て事業を同時に行っています。

船越や富士見地区のママさんたちは順番に回って参加していて、頑張っているなど感心しました。未就園児に対して4つの施設とも積極的にを行っています。駒越地区だけでなく清水区のどの地区も同じような事業を行っていると思います。

また、生涯学習交流館が地域事業を行った時は、社協の人たちがボランティアに来てくれたり、支援センターが行った時は交流館の場所を借りたりして、すべてが連携して行っています。これらに参加することで、子供たちは顔見知りになり仲良くなるし、親もママ友になるのでいいのではないかなと思います。

駒越地区に中国人親子が1組いたのですが、積極的に参加していました。今紹介したのは、入学前の子供たち対象ですが、入学後の子供たちにも、駒越学習交流館が定期的に、夏休みを利用して映画を上映したり陶芸教室を開いたり、たくさんの講座を計画しています。

その他に、地域育成委員会があって、月2回交流館を借りて子供たちに将棋や伝統文化を教えることを行っています。子育て問題は常に取り上げられていますが、実際はいろいろな工夫をしてやっているようにも感じます。なので、どうしたらこの情報を広められるか問題ですね。駒越交流館便りで毎月各家庭に配布していますが、それを見て積極的に参加している方もいるし、見ても参加しない方もいるかもしれない。ですから、どのようにこれらの事業の情報を届けていくのか、これからの課題だと思います。この事業を一番紹介しているのは、広報しずおか、各交流館便りです。このような情報紙を外国人の集まる場所に置けば、外国人の目に留まって参加してくれるのではないかなど。漢字が読めないという問題も出てくるかもしれませんが、ないよりある方がいいし、交流館便りをいろいろな場所に届けたいですね。

## 会長

ありがとうございました。いくつかの問題点が出てきましたが、1つ目は親の意思を尊重すること。これは幅の広い問題だと思いますし、これからいろいろなことに繋がると思います。私立公立の学校給食で、ベジタリアンの人、宗教上特定のお肉が食べられない等の問題が出てきますので、それらをどのように解決するのか、大きな問題ですね。どこまで親の意思を尊重して、どこまで周りのみんなに合わせるのか。やはり外国人としてちゃんと意見を出すべきだと思います。できるだけ日本の文化に合わせたいけれど、自分の文化も失いたくないから、どこまで妥協すべきか、重要な問題ですね。

2つ目は情報伝達ですね。防災の時もそうだったのですが、デジタル、アナログの問題がとても大きいと思います。Eメールだと安いいつでも送れるけれど、メールアドレスを持たなかったりあまり見なかったりする方もいると思うので、逆にアナログの方がいいかも

し  
知れませんね。

さっきおっしゃっていたチラシを、国際交流協会、入国管理局等、どこに置いたらいい  
のか大きな問題です。私の提案としては、予算がありましたら、年に数回、防災やゴミ収集、  
外国人に関する情報を郵送することもできると思います。

びんいん  
関委員

おうかわ  
王川さんに聞きたいのですが、子供を産んで、その子が大きくなっていくなかで、外国人  
として、どの段階が一番大変でしたか。

おうかわいん  
王川委員

じゅけん  
受験の時です。子供たちは反抗期ですし、受験に対するプレッシャーもありまして、  
一番大変だと感じました。

びんいん  
関委員

じゅけん  
受験ですか…でも市役所では何もしてくれないですよ。

ひぐまいん  
樋熊委員

うちの場合はシングルマザーだったので、学校から手紙が来た時、日本語が読めなかつ  
たので、英語で先生と連絡とりましたが大変でした。今は息子が日本語を読んでもくれるし書  
いてくれるしから大丈夫ですが、その時は情けないなと思いました。

おうかわいん  
王川委員

わたし  
私もありました。日本に来て最初の半年間は、読むだけなのに辞書が必要、その上1、  
2行書くのに2時間位かかったこともありまして。ただ割と早く乗り越えられたので、あ  
まり記憶に残っていませんでした。

びんいん  
関委員

さき  
先ほど王川さんがおっしゃっていた4つの柱は、前からあったものですか。

おうかわいん  
王川委員

これは前回の宿題として、今回調べたものです。以前からあったものかは、わからない  
です。私は交流館、昔の公民館をよく利用しました。子どもが小さい時、日本語ができ  
ない時、私も一緒について行きましたし、公民館で行われていた事業には参加していま  
した。

関委員

成人の子どもを持つ親は、そういった経験があると思うので、その経験のなかで大変だったことを紹介してもらって、それに対しての解決策を出してほしいです。

王川委員

振り返ってみれば、親としては、積極的に情報をつかむことですね。自治会に入って、回覧板を意味のないようなものも毎ページしっかり読むことですね。

関委員

王川さんは基本的にレベルが高いと思います。

朴委員

大田区の時にも、自治会長が「隣に誰が住んでいるのかわからないし、回覧板が回らない。顔を見合わせないと、ネットワークも築けない」とおっしゃっていました。日本人でさえ、隣に誰が住んでいるのかわからないのに、外国人にも要求するというのはどうなのだろうと思います。静岡市ですら、回覧板が回っている地域はかなり少ないはずですよ。

王川委員

清水地区は小さい町なので、昔の交流館のシステムも根付いていますよ。各地区各交流館があって、結構利用していましたね。

朴委員

わりと年配の方が多くないですか。

王川委員

いろいろな事業を行っているので、平日は年配、主婦の方が多のですが、夏休みには子供たちに向けた事業を行っていますね。

朴委員

それで網羅できますか。全ての市民がわかっていて、反応が早いですか。

王川委員

多少問題はあります。

朴委員

そうですね。大田区の協議会の中で、台湾の方が「行政はスーパーマンではないので、



外国人が行政に歩み寄り、行政は外国人（静岡市民）に歩み寄りましょう。宗教等でラインが変わる、中国人なら中国人、フィリピン人ならフィリピン人、朝鮮人なら朝鮮人で集まりますよね。なので、それらのネットワークを利用できないか」とおっしゃっていました。回覧板で回すよりも、各団体に情報を投げれば一気に広まるわけですから。ただ、団体がたくさんありすぎて、なかなか難しいとも言っていました。ただ、可能性はあると思うので、静岡市にもそのような可能性はないのかなと。

会長

では、次に宋委員をお願いします。

宋委員

私は今、子育て7年目に入っておりまして、今までで一番大変だった時期は、0～1才の時期です。まさに子育ての初めの時期だったのですが、その時に一瞬思ったのが、定期検診を日本人と一緒にやっていることでした。

子どもの定期検診と親の相談を一緒に受けたのですが、言葉の問題はなかったのですが、日本人と一緒に健診を受けたので、本来相談したかった外国人としての育児の悩みの相談が出来ず、人数がとても多くて、健診も相談もあつという間に終わってしまいました。

ですので、外国人だけの定期検診を行うのはどうかと思いました。静岡市で、外国人だけが親が集まるというのを県民だよりで報告しているのを見ました。当時私の地域は該当しなかったのですが、いいなと思っていました。

私の提案としては、日本人と一緒に行うのは構わないのですが、できれば外国人の親子だけの定期検診ができればいいなと思いました。これを通して、同じ国のネットワークを作ることでもできるし、外国人の親が抱える悩みや問題の解決策を、支援する行政側も外国人が抱えている悩みがわかってくるのではないかなと思います。

王川委員

とてもいいと思います。その時にたくさんの情報を伝えればいいなと。その時もし言葉の問題があるなら、通訳等つけばいいし。

宋委員

主催する側は大変だとは思いますが、特に予算の関係で。ただ可能であればやっていただきたいです。

関委員

外国人の定期検診ではなく、例えば各区に分けて3才までの親子と一緒に集まる会のようなものを、一ヶ月に一回とか市で作ってもらって、それに参加すればいいのではないで

すか。

おうかわいじん  
王川委員

にほんじん ていきてき すで  
日本人は定期的にあるのですよ、既に。

そんいじん  
宋委員

にほんじん がいこくじんかんけい いっしょ  
日本人、外国人関係なく一緒になっているのですよ。子どもが6か月であれば、保健センターでやっているのですよ。

かいちやう  
会長

びんいじん  
関委員がおっしゃっているのは、定期検診とは関係なく、普通の集まりですよ。

そんいじん  
宋委員

にほんじん はい もんだい じぶん 支援センターとか行くとか、積極的に動  
けば日本人との交流というのはいっぱいあるのですが、外国人同士と会えたり集まったり  
する機会というのは少ないですよ。自分の母国の出身はさらに少ないです。

かいちやう  
会長

ていきけんしん  
定期検診のメリットは、積極的ではない方でも参加するので、ただの外国人の親の集  
まりだけでしたら、人数は少ないし、来てくれない方も多いため、情報も回らないと思いま  
す。集まるにも具体性がないと、いつも同じメンバーになってしまいますよね。ですから、  
定期検診と集まりを一緒にした方が、より効果的だと思います。

じむきよく  
事務局

ていきけんしんがい がいこくじん おやこ  
定期検診以外で外国人の親子の集まりがあったらいいなということですか。

そんいじん  
宋委員

いちばん  
一番いいのは定期検診だと思います。0～1才、初めての時は情報も何もないのですが、  
健診は誰もが行く場所ですよ。だからそこに外国人だけの場を設けられれば一番いいの  
ですが、それが難しかったら、子どもが同じ月の外国人の親子が集まる場を設けたいです。

びんいじん  
関委員

おな ねんれい こどもをも おや あつ ほう はな  
同じ年齢の子どもを持つ親の集まりの方が、話しやすいですね。悩みも同じですし。

かいちやう  
会長

それがいたら、外国人向けの育児講座とか開けばどうですかね。

おうかわいじん  
王川委員

ていきけんしん おや いっしょ かなら い とき いろいろな じょうほう も ひと つた えられるら、さらにいいなと思おいますね。

かいちょう  
会長

つづいて スレッシュ委員 お願いおします。

スレッシュ委員

いま いろいろな 話を聞いていて私がお思ったことは、親の意思がなかったら子育てもできないと思おいます。がいこくじんだけのネットワークを作ってもあまり意味がない、にほんじんの方と同じようにその輪の中に入れて情報収集しながらいかないと、この社会ではやっていけないと思おいます。にほんじんがいて、がいこくじんがいて、そこでいろいろな話をしながら、いいアイデアを見つけていい社会が成り立つのではないかなと思おいます。

わたし つまが、この社会に自分から入って行かないと何もできないと言っていました。いま、しえいじゆうたくに住んでいるのですが、自分からアピールしてその輪に入れて行かないと、外国からきて仕事ばかりして社会に何も貢献しないと思おうにほんじんの方もいるのではないかなと思おっています。自分たちも地域に何かできるということをおアピールしていかないと、子育てしていく上で日本人からの助けをもらえないということが、しえいじゆうたくに住んで気づいたことです。子どもが病気になった時も、いっしょに住む方々が声をかけてくれます。自分たちから輪の中に入れて行ったからこそ、周りから自分たちは守られていると感おじます。がいこくじんの集まりは大事ですが、みんないっしょにこの社会を作っていかないと、その文化は成り立っていかないですよ。

さきほど ぼくいじんが言っていたのですが、私にはやはり、とうきょうの人間は機械人間にしか見えないです。しずおかは田舎なのですが、くうきが新鮮で周りの人たちが優しくしてくれるのですよ。だから、自分が一生懸命やれば、周りもそれに応えてくれるし、子育ても上手いいくのではないかなと思おいます。

かいちょう  
会長

これからネットワークがあった方がいいし、がいこくじんとにほんじんがもっと交流するべきということですね。

スレッシュ委員

けんで、パパママ応援団というのをやっていますよね。そういうのに参加するのも、ネットワークが広がって、コミュニケーションが取りやすくなるのではないかなと思おいます。

かいちょう  
会長

積極的に動く外国人に対しては効果的ですね。あとは、言葉の問題等もありますよね。日本語があまりできない人が、日本人とコミュニケーションとるのは少し難しいです。

スレッシュ委員

私たちが最初は話せなかったし、理解できなかったですが、それでも話していけば、だんだんコミュニケーションも取れるようになっていきますよ。外国人ばかり集まると難しいですよ、この社会は。

かいちょう  
会長

今まで出た意見は、すべて親のためのものなのかなと。土地副会長の意見も含めて、もっと子供たちのためのものを、子育ては親のことでありますが、子供の人生に関する問題もありますので、それらも含めて、スレッシュ委員がおっしゃったような外国人と日本人の交流、そして静岡のビジョンとして、外国人と日本人が生活する上でどのように考えているのかも考えた方がいいのかなと思います。

多文化主義で考えるのか、外国人というお客様のような扱いをされるのか。外国人と共存する子どもたちも今増えてきていますので、日本人の子どもたちにもどのように教えられるのか、そのような問題も考えた方がいいと思います。根本的な主義がないと、ネットワークの広げ方もわからないですね。朴委員はどう思いますか。

ぼくいん  
朴委員

みなさんが静岡に来てから抱えている具体的な問題がたくさん出てきていますが、私が根本的に思うのは、子育て中の方に関して、抱えている問題は日本人も外国人も大差がないと思います。日本の方で、嫁いだ先で誰も知らない土地で出産、子育てをされる場合、育児ノイローゼになったり、ママ友が出来なかったり、定期検診がいつなのかもわからないなどといったケースは、実際ゴロゴロしています。

外国人にとっても日本人にとっても、子供を産んで育てるとするのは大変な作業で、誰かに助けてもらわないと一人ではできません。そういう意味で、子育てというのを外国人だけにヒューチャーするのではなく、日本人にとっても同じだと考えた方がいいのではないかと思います。ただ、子どもたちの世界では、肌が白かろうが黒かろうが関係なしに育っていますよ、順応能力が高いので。大人だけだと思います、そういうことを気にしているのは。

かいちょう  
会長

中学生ころからですよ。

ぼくいん  
朴委員

そうですね、思春期あたりから。いじめもその頃から始まりますしね。今の世の中、日本人同士でさえいじめが多発しているのに、相手が外国人ともなれば起こらないわけがないですよ。これからこのような問題に必ず遭遇してくると思うので、できるだけ無くしたい。小さい話で、ごみ出しの問題とかで、ブラジル人だからルールを守らないとか聞きますが、日本人でも大学生、新社会人の方は出し方がメチャメチャですよ。外国人の問題だからというのではないと思います。今までの話を聞いていて思ったことをまとめると、行政に要求したいことは、外国人だから発生している問題ではなくて、日本人においても同じようなことが行われている。静岡市民としてはみんな同じなので、行政が行う部分では、やはり同じ土俵でみななければいけないのかなど。会長のおっしゃったお客さん扱いとしてではなく、両方伝える必要がありますよね。

かいちょう  
会長

私が言いたかったのは、外国人に対して特別ないじめがあるかもしれませんよね。それに対する解決策は、普通のいじめとは違うかもしれませんし、そのような知識の専門家が必要になるかもしれません。先ほどの給食の話においても、アレルギーがあって食べられないのと、宗教的文化的な問題で食べられないとでは少し違いますよね。子育てにおいても、親の問題については大差ないかもしれませんが、子供は思春期とかでいろいろ大変な時がくると思うので、外からの文化についてどのように考えたらいいか、静岡市が市内にいる外国人に協力したいと思っていることも事実ですが、市の大きなビジョンがどうなっているのか、ただ面白いものとして受け入れるのか、それともお互いの文化を理解するために深いものとして受け入れるのか等、しっかり考えなければならぬと思います。

ぼくいん  
朴委員

より良い暮らしのために、外国人も外国人の立場で、日本人も日本人の立場で答えを探しに行かなければならないと思うのです。静岡市が持つ1つの強みが大道芸ですよ。20年以上もやっていると、ヨーロッパでは有名みたいですね。その市で、外国人が苦しんではいけませんね。これからも継続していくであろう素晴らしいアイテムがあるのだから、それに恥じないようにしないといけないですよ。大田区へ行った時、改めて気付かされました。

かいちょう  
会長

時間の関係で終わらせていただきます。いくつかのテーマ、外国人健診や情報交換などが出ましたので、事務局の方にまとめをお願いしたいです。

関委員

大きな話ではなく、自分の体験の中の具体的な話をしてほしい。朴さんのお子さんは、基本的に日本人の方と同じですよ、ここで産まれてここで育っていますよね。

朴委員

そうですね、日本人として日本人と仲良く共生していくけれど…

関委員

それはわかりますし、考え方は正しいと思います。苗字としては韓国人ですが、一人の日本人として、子育ての中でどのような点が大変だったか、あるいは外国人とリンクするか、どのような違いがあるのか、みなさんの考えをぶつけてほしいです。

朴委員

定期検診等で、それこそ三種混合や熱が出た時とか本当大変でしたが、他の日本人と何ら変わらなかったです。私の立場で子育てに関して言えることは、日本に住みながらもどうやってアイデンティティを植え付けるのかが、一番難しかったです。

関委員

植え付けるまでに時間がかかるかもしれない、それに慣れるまでの外国人が大変だと思います。

朴委員

そうですね、ただそれは、親がどう思い、どう実践していくかだけです。最初の取りかかりとしては、自国の言葉をしゃべれるということは不可欠ですね、しゃべれないとそういう気持ちも生まれてこないです。日本人の日本語を愛さないで日本を愛せないでしょ。

関委員

自分の子育てのなかから大変だった時期とかを話して…やはり外国人特有の子育ての悩みがあると思うのですよ。日本人になれとか、社会に慣れろとかではなく、ここで育ていく上で、いろいろな悩みがあると思うのですよね。

宋委員

いろいろ話を聞いていて、やはり私は上地副会長の意見に賛成します。教育のことは、これからやるつもりです。これから子供たちに多文化教育をするのはとても重要なことだと思っております。私の娘にもこれから韓国の文化をアピールするつもりです。そういう風に自分でできるものはあるのですが、定期検診の場を作るとか、自分の力でできないもの

はサポートしてもらいたいということです。

樋熊委員

子供は隣にいないけれど、助けてくれる日本人が周りにいるから、今私は一人でも生活  
できています。外国人の方も、頑張れば何とかできると思います。